

「あきづき」の予備枝育成法と着果管理法による安定生産技術

福島県果樹試験場 栽培部
平成10～12年度試験研究成績書

1 部門名

果樹ーナシー収量構成要素
分類コード 04-03-26000000

2 担当者

松野英行・斎藤義雄

3 要 旨

果実品質が良好な「あきづき」は、近年、急速に植栽面積が増加している。しかし品種登録(平成13年)されてから日が浅いため、安定生産のための栽培技術が確立されていない。このことから、主に花芽着生や摘果時期について調査を行い、いくつかの知見を明らかにした。

- (1) 主枝基部の新梢は腋花芽分化率は高まるが、新梢伸長が旺盛で棚付け作業が難しくなることから側枝としての利用は難しい。主枝先端部の新梢は予備枝処理(切り戻し)を強めにし、予備枝新梢の生育を旺盛にする栽培管理が必要であった。
- (2) 主枝基部に側枝を育成しようとする場合は、予備枝せん定では1次伸長先端部位までの極軽い切り戻し程度にとどめ長めの予備枝とすること、マチ枝部の肥大を抑制しながら棚付け作業を軽易化するために早めに誘引を実施することが必要であると考えられた。
- (3) 本摘果の時期の早晩は果実肥大に影響はなかった。しかし摘果時期が遅れると翌年の花芽割合が低下するだけでなく盲芽割合も増加する傾向であった。このため、予備摘果後はできるだけ早い時期に本摘果を実施し、着果数を制限することが安定生産に結びつくと考えられた。

4 その他の資料等

なし